

むかしむかし 昔々の そお市

郷土を知る

社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958



秋の風物詩 住吉神社の流鏑馬

秋

も深まる11月23日、住吉神社の豊祭で流鏑馬が奉納されます。

鎌倉時代を彷彿とさせる巻狩姿の射手が約300メートルの参道を鳥居から神社に向かって馬を馳せ、馬上から途中3カ所の的を射ます。これを3回繰り返し、当たった矢の数が多いほど翌年は豊年といわれています。地元の人々が参加する収穫感謝の色彩が強く、国家安泰・五穀豊穡の他に年占いの性格も持っています。

流鏑馬は、平安時代末期から鎌倉時代に武芸として盛んに行われ、後に儀式化して祭礼の奉納行事となってきました。公式には727(神亀4)年5月5日に聖武天皇が観覧したのが始まりであるといわれています。

流鏑馬を最盛にしたのは源頼朝で、鶴岡八幡放生会に流鏑馬を奉納しましたが、式法の難しさとお金の増大から大儀なものとして衰えていきました。次に復興されたのは徳川吉宗の時代ですが、この頃に住吉神社の流鏑馬の式法であ

る小笠原流も出来たといわれています。

現在では、秋の豊祭に行われることが多く、鹿児島県内では他に、肝付町新富の四十九所神社、日置市吹上の大汝牟遅神社の2カ所に伝承されています。

住吉神社の流鏑馬の起源は不明ですが、薩摩藩が江戸時代後期に編纂した『三国名勝図会』に記録が見られ、昭和56年に県無形民俗文化財に指定されました。

残念ながら新型コロナウイルスの影響で今年の流鏑馬は中止が決定しましたが例年と変わらず国家安泰・五穀豊穡を願うばかりです。



募集しています

流鏑馬の射手(小学生5・6年生)と、豊祭当日にお手伝いをしていただける方を随時募集しています。興味のある方は社会教育課 文化財係(☎ 099-482-5958)までご連絡ください。

